

国立環境研究所における野鳥を対象とした 鳥インフルエンザ関連研究の紹介

大沼 学

国立研究開発法人 国立環境研究所 生物多様性領域（生態リスク評価・対策研究室）主幹研究員

高病原性鳥インフルエンザウイルスは、家禽類に大量死を引き起こす病原体であるとともに、人獣共通感染症の原因となる病原体でもある。また、このウイルスが原因となる野生鳥類の大量死事例も報告されていることから、生物多様性への影響も懸念されている。国立環境研究所では、これまでに、渡り鳥における本ウイルスの保有状況調査、ウイルス検査方法の高感度化、野鳥における感染リスク評価等を実施してきた。また、絶滅危惧種に対する高病原性鳥インフルエンザウイルスの病原性を培養細胞で評価することも試みている。今回の発表では、これらの研究成果を紹介する。